

2026年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜) 問題

専門科目 日本思想史 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

2026年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(冬期・一般選抜)問題

専門科目 (日本思想史 専攻分野)

一、今後研究しようとするテーマの思想史学上の研究意義について論じなさい(20行程度)。

成	績

二、次の①～④について簡潔に説明しなさい（各3～4行程度）。

①鎌倉時代の顕密仏教と禅宗

②徂徠学派と商品経済

③本居宣長の漢意批判かろいひ

④西田幾多郎と鈴木大拙

三、次の史料は、浅野乾という人物が『朝野新聞』に投書した論説の一部である。史料を読んで、以下の問いに答えなさい。

世ニ無宗旨ヲ希望スル人アリ、其言ニ曰ク、宗教ハ妄誕無稽ノ事ヲ以テ強テ人ノ徳義ヲ修ムルヲ希望スルガ故ニ、其人ノ智識進歩ニ妨害ヲ生ズル、実ニ些少ナリト言フ可ラズ、而シテ彼ノ宗教ナル者ハ、常ニ人民智識ノ進ムニ随ヒ改良ス可キ者ナリ、余輩未ダ宗教ガ人ノ徳義ヲ進メシヲ知ラズ、故ニ宗教ハ有害無益ナリ、吾輩ハ今日無宗旨ノ流行ヲ幸トシテ、以テ宗教自由ニ関シテハ発論セザル可シト。善イ哉此説ヤ、実ニ論者ガ言フ如ク宗教ハ往々妄誕不稽ヲ説ク事多シ。智識進歩ニ妨害無シト言フ可ラズ。又宗教ハ常ニ智識ノ進歩ニ随テ改良ス可キ者ナレバ、文明世界ニ於テハ人ノ徳義ヲ進ムルハ智識ニ存シテ宗教ニ非ルナリ。然レ共^テ 甲論者ノ我ガ日本人民ヲシテ無宗旨タラシメ、宗教ノ旺盛ヲ防禦スト言フニ至ツテハ、少シク謬見ナルガ如シ。請フ、余輩ノ言フ所ロヲ聴ケ。論者ハ已ニ学識才徳アル人ニシテ、心既ニ宗教ノ妄誕ナルト開化世界ノ人民ノ為メニ徳義ヲ益ス能ハザルトヲ知ルガ故ニ、無宗旨ハ実ニ可ナリト云フト雖ドモ、下等社会ノ民ハ学識才徳アルニ非ズ、宗教ノ信ズ可ラザル所以ヲ識ルニ非ズ。仮令此輩ヲシテ無宗旨タラシムルモ、肝心ノ学識アルニ非ズンバ国ノ為メニ何等ノ益カアル。宗教ノ妄誕ヲ信ゼザルモ、天狗ヤ狐ヲ信ズ可シ。論者ガ望ム所ロハ学識ノ有無ニ在ツテ、宗教ノ有無ニハ在ラザル可シト信ズ。然ラバ則チ寧ロ健筆雄弁ヲ以テ自由信仰ノ貴重ナルヲ説キ、而シテ下等社会ヲシテ自由ノ尊重ス可キ、束縛ノ忌ム可キヲ知ラシメンニハ若カズ。論者幸ニ吾言ヲ採ラバ、共ニ俱ニ毛穎氏ニ命ジテ、自由信仰ノ論説ヲ綴ツテ以テ此ノ公論ヲ喚起セヨ。

乙論者ハ新聞紙上ニ揚言シテ曰ク、未開人民ヲシテ妄リニ自由ヲ得セシムレバ巨害ヲ生ズ、宗教ニ於テモ亦然リ、自由信仰ハ今日實際上ニ於テ許ス可ラザル者アリ、是レ則チ一時ノ権道ナリト。(中略)到底我輩ニハ権道ナルニ文字ガ如何ナル意味ニヤ明解ニ困シメ共、先ヅ当座ノ都合ト云フ字トシテ考察スルニ、信仰自由ヲ許シテ民ニ自由ナルモノノ貴キヲ知ラシムル至善至美ノ都合コソ有レ、未ダ之レヲ許スガ悪シキト云フ都合有ルヲ知ラザル也。何ハ兎モアレ自由信仰ヲ許シテ有益無害ナラバ、権道ノ利害如何ハ暫ラク之レヲ政府ノ謀議ニ委任シ、我輩ハ共ニ俱ニ硯ヲ磨シ筆ヲ禿シテ自由信仰ノ許可アランヲ政府ニ請ヒ、自由ノ尊重ス可キヲ世人ニ知ラシメンコソ願ハシケレ。乙論者幸ニ之ヲ肯ンゼヨ。(中略)此篇ニ於テハ、只下等社会ヲシテ自由貴重スルノ念ヲ発セシメンガ為メニ自由信仰ヲ許可アランヲ希望シ、世上ノ愛国者ニ向テ共ニ力ヲ尽サン事ヲ懇請スル而已。

【『日本近代思想大系5 宗教と国家』収録の『朝野新聞』投書(明治九年十月一日)を一部改変】

(1) 傍線の箇所(ア)に関して、浅野乾はなぜ甲論者の主張を謬見であるとしたのか。史料の内容に即して簡潔に説明しなさい(5行程度)。

(2) 傍線の箇所(イ)に関して、乙論者の主張はどのようなものか。権道という言葉の意味するところに留意しつつ、具体的に説明しなさい(5行程度)。

(3) 浅野乾の主張は、福沢諭吉や中村正直といった文明開化期の啓蒙思想家と比べた場合、どのような特徴を有しているか。共通点・相違点の両面から論じなさい(5行程度)。

受験記号番号